

SQL Server ファイアウォール例外設定

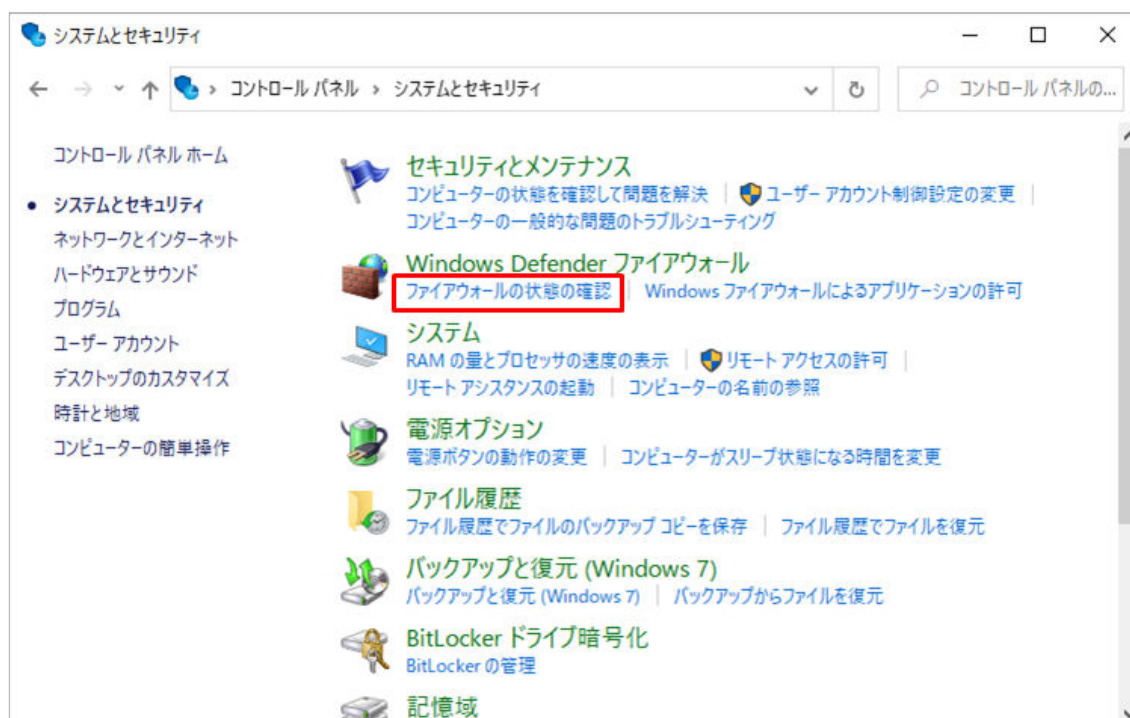
○ファイアウォールの設定を確認する

1. [スタート] ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール] – [コントロールパネル] をクリックして開きます。

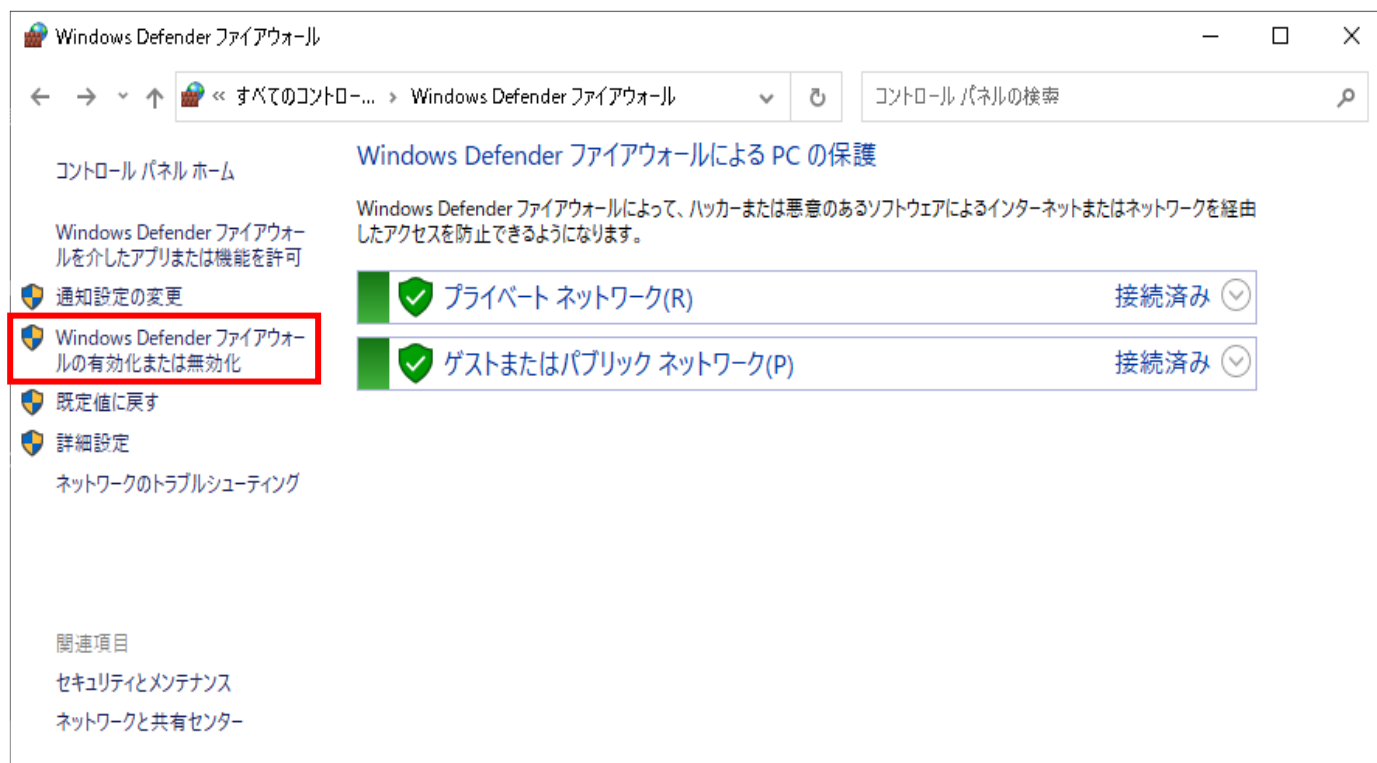
2. [システムとセキュリティ] をクリックします。



3. [ファイアウォールの状態の確認] をクリックします。



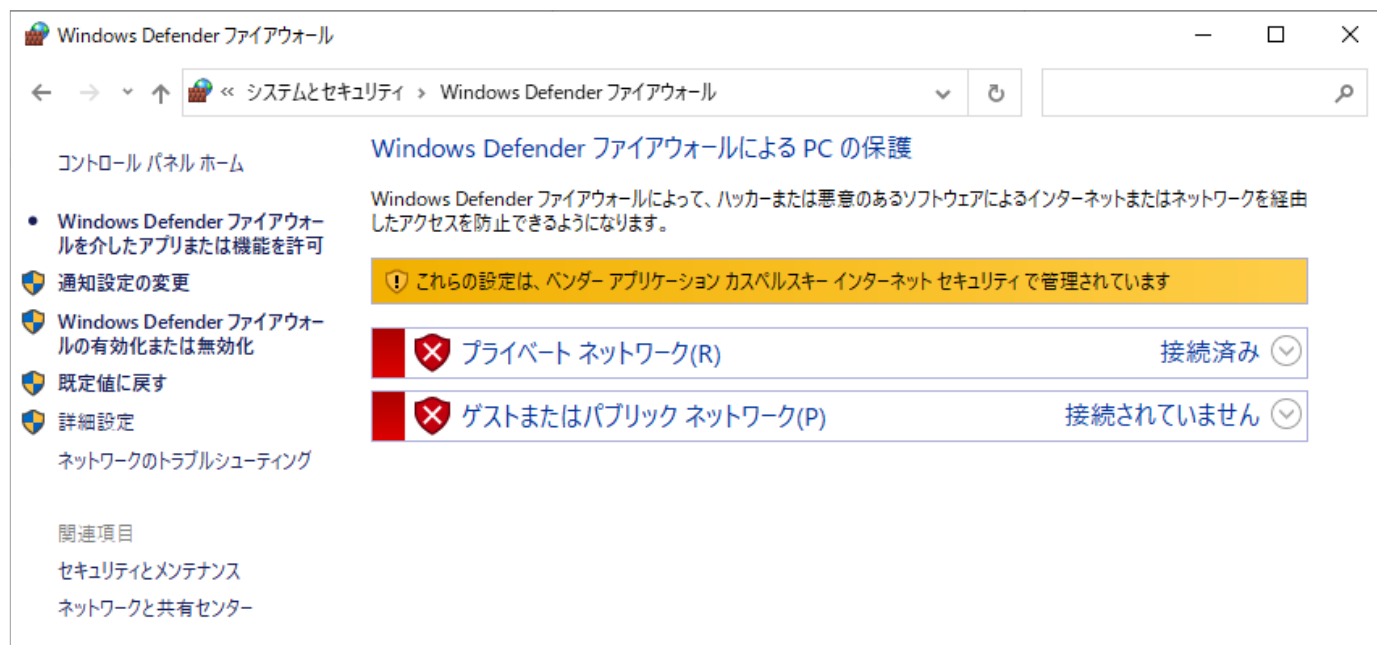
4.左側に表示されている「Windows Defender ファイアウォールの有効化または無効化」をクリックします。



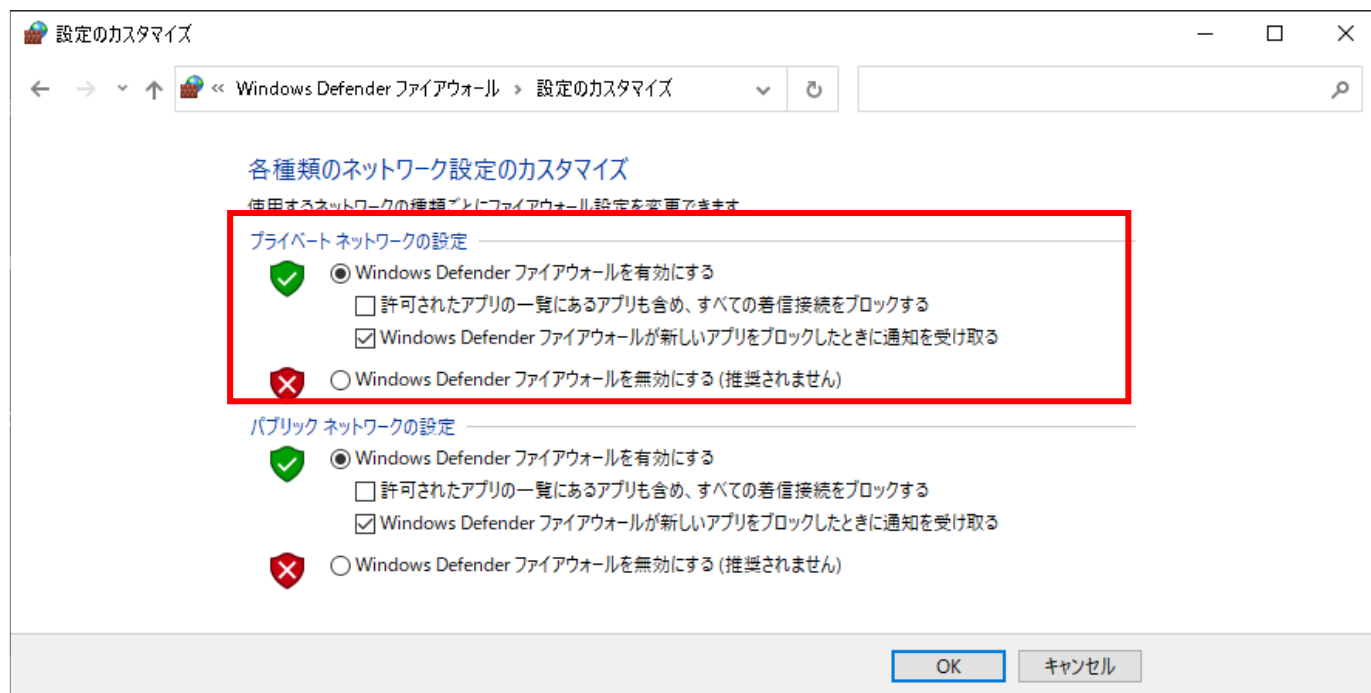
※ファイアウォール機能がある市販のセキュリティソフト等をインストールしている場合、下記のような画面になり選択できない状態になっています。

市販のセキュリティソフト等でも、「SQL Server」への通信を許可する設定が必要です。

設定方法についてはセキュリティソフト等の提供会社にご確認ください。



5. ネットワークの設定内容を確認します



ここでは「プライベートネットワークの設定」を例に説明しますが、環境によって「パブリックネットワークの設定」など異なります。

5-1. 「プライベートネットワークの設定」「パブリックネットワークの設定」など複数の設定が表示されている場合

設定内容が、すべて同じかを確認してください。

設定が異なる場合は、意図的に設定を変更されている可能性があります。担当者の方にご相談ください。

| 設定状態 | 対応 | |
|---|---|---|
| [Windows Defender ファイアウォールを有効にする]が選択されている | [許可されたアプリの一覧にあるアプリも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックが付いている | 次の手順以降のファイアウォール設定を行っても設定は無効になり「SQL Server」へ接続できません。担当の方に相談してください。 |
| | [許可されたアプリの一覧にあるアプリも含め、すべての着信接続をブロックする]にチェックが付いていない | 以下に説明の、ファイアウォールの設定を行います。 |
| [Windows Defender ファイアウォールを無効にする]が選択されている | 以下のファイアウォールの設定は必要ありません。市販のセキュリティソフト等を使用している場合は、別途セキュリティソフト等で設定を行ってください。 | |

※ファイアウォール機能がある市販のセキュリティソフト等をインストールしている場合

市販のセキュリティソフト等でも、「SQL Server」への通信を許可する設定が必要です。

設定方法についてはセキュリティソフト等の購入メーカーにご確認ください。

○通信を許可する設定を行う

以下 2 つのファイルに通信の許可が必要です。

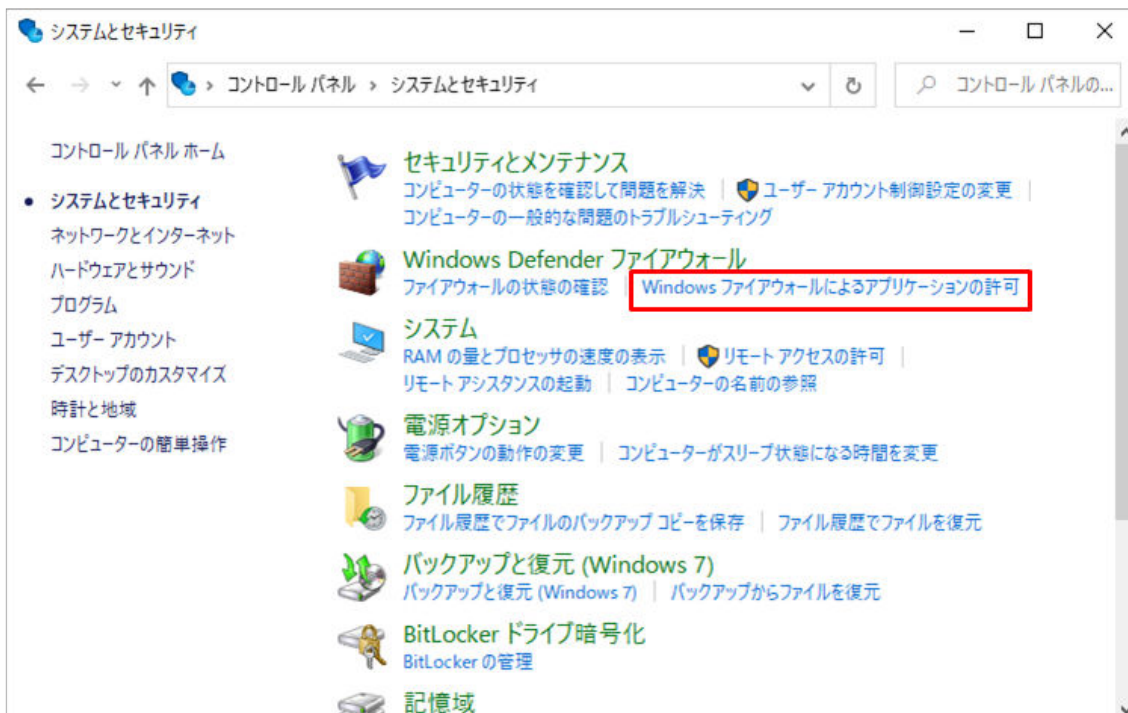
- ・ 「sqlservr.exe」
- ・ 「sqlbrowser.exe」

以下の手順に沿って 2 つのファイルの設定をしてください。

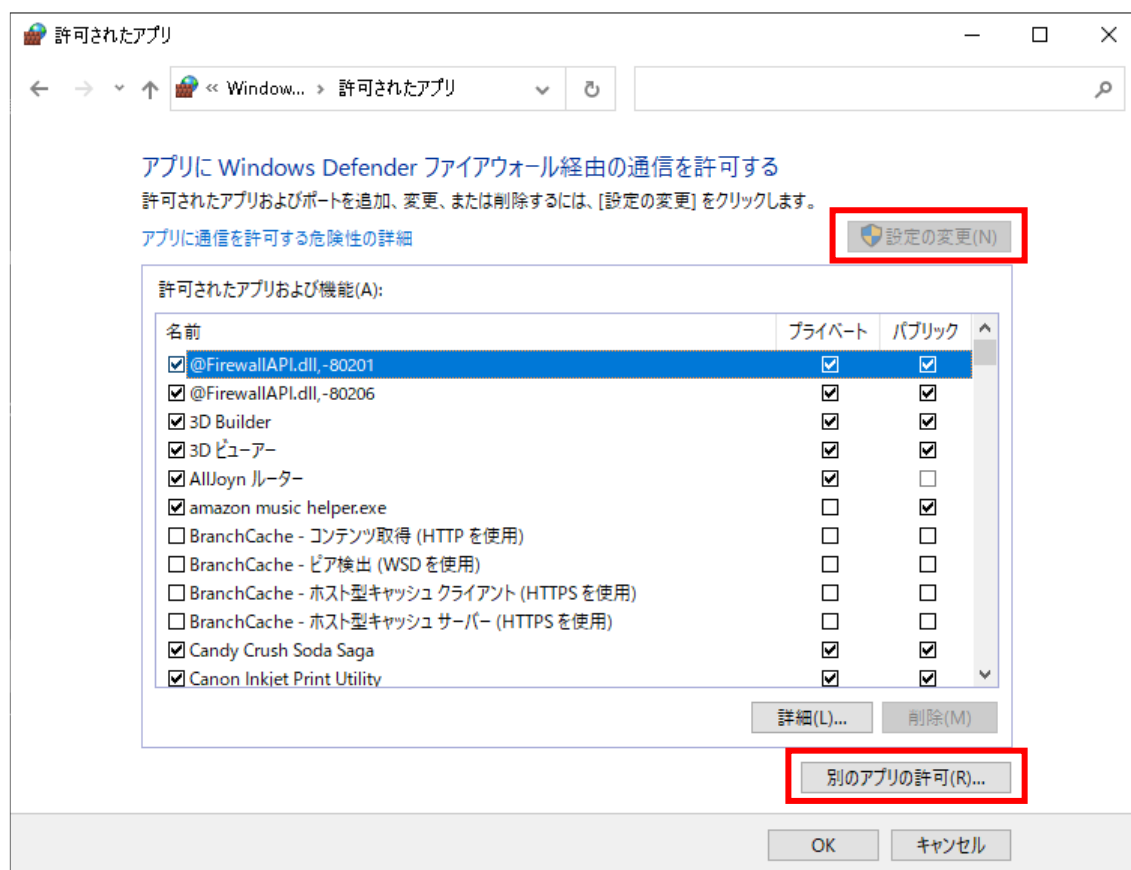
1. [スタート] ボタンからすべてのアプリを表示して、[Windows システム ツール] – [コントロールパネル] をクリックして開きます。
2. [システムとセキュリティ] をクリックします。



3. [Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可] をクリックします。

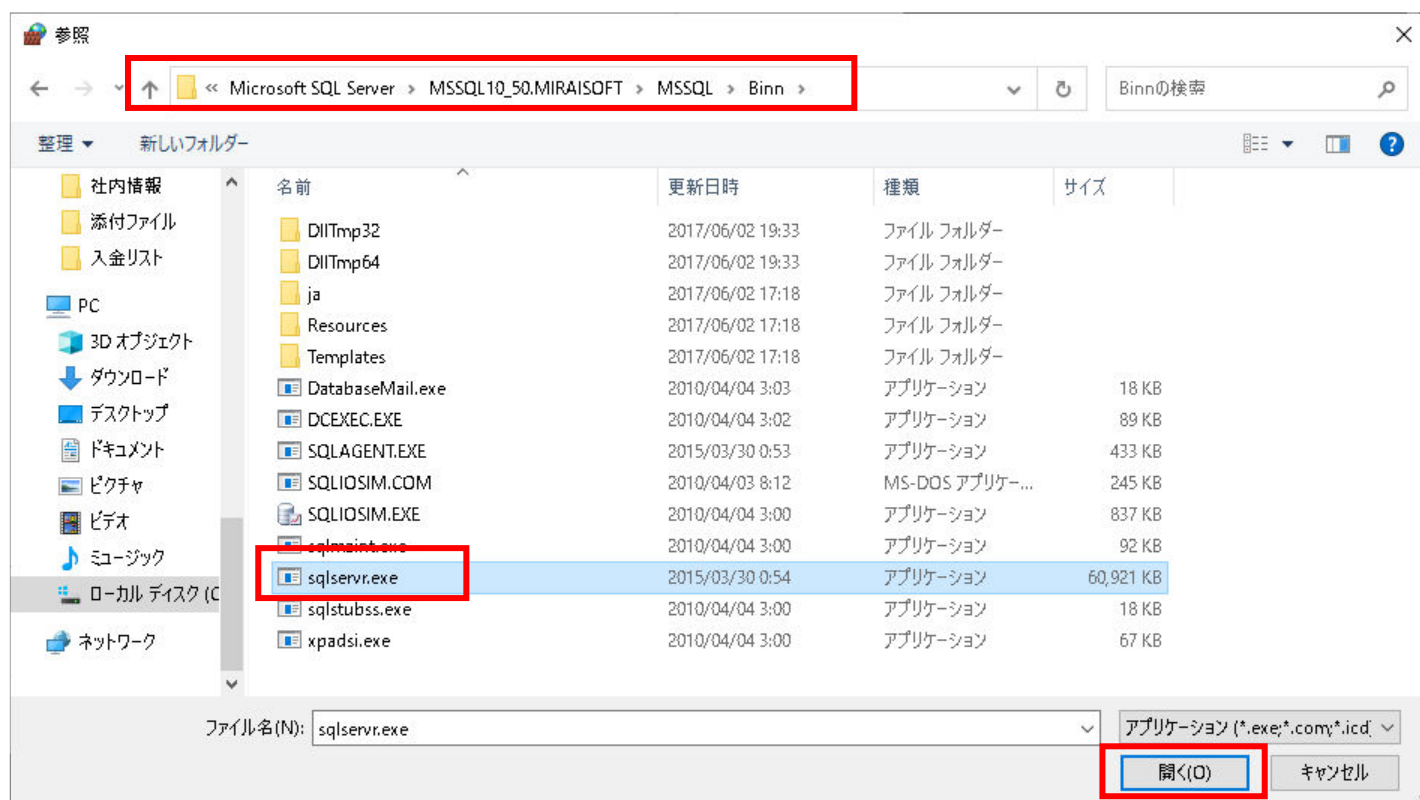


4. [設定の変更] をクリックし、[別のアプリの許可] をクリックします。

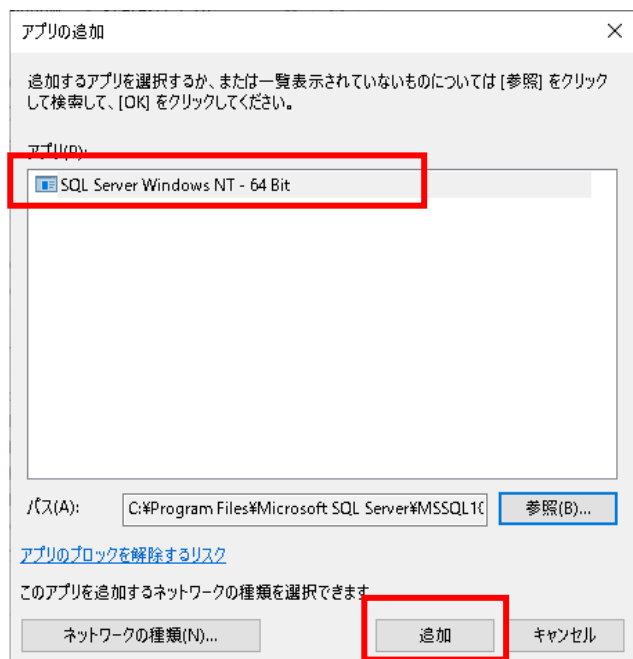


5. [アプリの追加] 画面で [参照] をクリックします。

「C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10_50.MIRAI\Binn」を開き、「sqlservr.exe」を選択して、開くをクリックします。



6. [アプリの追加] 画面で「SQL Server Windows NT」が表示されていることを確認したら、[追加] をクリックします。



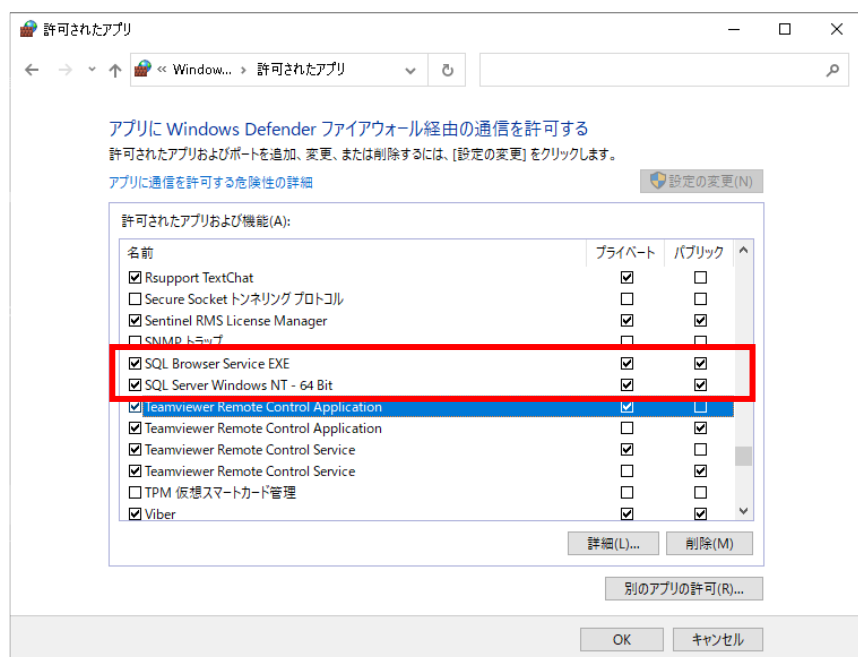
7.同じく「sqlbrowser.exe」の例外設定をします。

8.元の画面に戻ったら、再度 [別のアプリの許可] をクリックして、[アプリの追加] 画面で [参照] をクリックします。

「C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\90\Shared\¥」を開き、「sqlbrowser.exe」を選択して [開く] をクリックします。

9. [アプリの追加] 画面で「SQL Browser Service EXE」が表示されていることを確認したら、[追加] をクリックします

10. [許可されたアプリおよび機能] に、「SQL Server Windows NT」と「SQL Browser Service EXE」が追加され、チェックが付いていることを確認して、[OK] をクリックします。

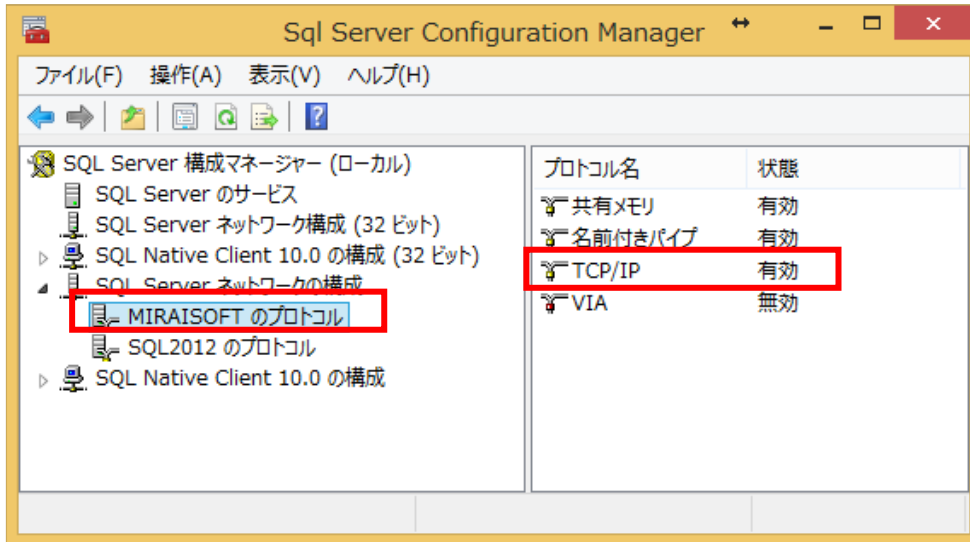


「プライベート」「パブリック」「ドメイン」など、ご利用の環境の箇所にチェックが付きます。

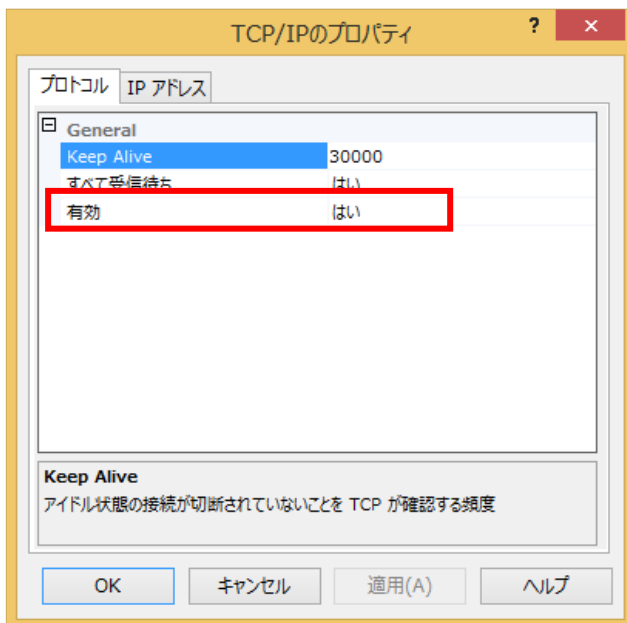
○通信の有効化

1. スタート→すべてのプログラム→Microsoft SQL Server 2008 R2→構成ツール→SQL Server 構成マネージャー を選択します。

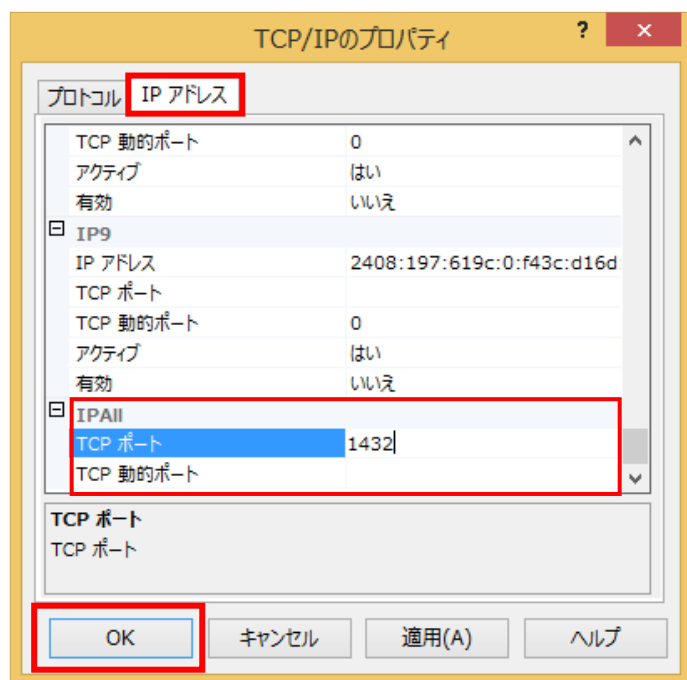
2. 左側の画面から、「SQL Server ネットワークの構成」を展開し「MIRASOFT のプロトコル」を選択し、右側の画面から「TCP/IP」をダブルクリックします



3. 有効を「はい」に選択します



4. 「IP アドレス」 を選択し、「IPALL」 部分に TCP ポートに「1432」 を入力し、TCP 動的ポートに入力されている文字を消し、[OK]ボタンを押します。



5. 下記メッセージが表示された場合は、[OK]ボタンを押し、パソコンの再起動を行ってください。

